

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎・基本の定着を見据えた実験や観察を多く取り入れ、実学を由来としたイメージ力のアップ、基礎知識の定着に重点を置いた授業展開ができた。

(2) 課題

- ・用語の理解が不十分であり、さらなる基礎・基本の定着のための工夫が必要である。
- ・実験・観察の考察について、順を追った思考と言語や文章による表現に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	目標値を下回っている。	/	/
第2学年	目標値を下回っている。	目標値を下回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	目標値を下回っている。	目標値を下回っている。 (第2学年時)	目標値とほぼ同程度。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物・地学の正答率が高いが、物理・化学では課題がある。	基礎知識が定着していたり、実学で経験している単元はイメージ化しやすく、目標値と同じような結果となっている。	単元によって得意・不得意がみられ、特に不得意な単元については粘り強く理解するまで取り組む姿勢が必要。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎の定着が不十分で、目標値を大きく下回った。	基礎の定着が不十分なので、思考のための基礎力がついていない。	読解力に課題があることが見受けられる。粘り強く理解するまで取り組む姿勢が必要。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区・全国を下回っており、課題となった。基礎の定着は必須。	知識・理解ほどではないものの、区・全国を下回る。順を追った思考の定着が課題。	区・全国の正答率とほぼ等しい。粘り強く理解するまで取り組む姿勢が必要。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
特に物理・化学は実験を重視し、ICTを用いた繰り返しの指導を重点的に行う。	未経験の事象でも、順を追って考えることをルーティン化することで、説明ができるようにする。	ICTを使って視覚的にとらえたことを経験として積み重ねていくために、継続的な家庭学習に重点を置く。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎・基本の徹底のため、用語の理解や計算演習のための時間を十分にとる。	物事を順を追ってとらえ、理解し、表現する道筋を考える練習の機会を多くする。	ICTを使った家庭学習を促していくことも含めて、効率の良い学習を意識させていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎・基本の定着を引き続き重点的に指導。繰り返し学習を十分に取り入れていく。	物事を順を追ってとらえ、理解し、表現する道筋を考える練習の機会を多くする。	理論だけでなく、ICTを用いて視覚的効果を取り入れることで、イメージする力をつけ、科学的な興味をもたせる。